

3キャンパスへ校友会、各学部同窓会が陶板画を寄贈

龍谷大学は創立400周年を迎える2039年度に向け、「龍谷大学基本構想400」を掲げ大規模施設整備が進んでいます。各キャンパスの新校舎竣工などに伴い、その記念として龍谷大学校友会・各学部同窓会が陶板画9点を寄贈しました。



深草キャンパス「慧光館」



瀬田キャンパス「8号館」

■瀬田キャンパス
龍谷大学大宮図書館に所蔵する貴重書の中でも、理系の学部展開をする瀬田キャンパスに関連した科学に関する、「解体新書」「算用記」「須弥山儀」「舎密開宗」「本草摘要講義」「仏国曆

象編」の6点の陶板画を「8号館」に寄贈しました。

■大宮
「黎明館」に江戸時代の画家・司馬江漢が描いた星座図である



付属平安中高caféでの除幕式

「天球図」の陶板画を、付属平安中高のcaféには、「第三仏教中学(現龍谷大学付属平安高等学校・中学校)本館」(一九〇九年建設)の校舎写真の陶板画を寄贈しました。

■深草キャンパス

「慧光館」の外壁には、「混一疆理歴代国都之図」の陶板画を寄贈しました。「混一疆理歴代国都之図」は明の建文4(二四〇二)年、李氏朝鮮で作成された現存最古の世界地図です。

寄贈したすべての陶板は、龍谷大学が所蔵する貴重な書籍や資料を基にしました。学生の皆さんが、龍谷大学が所蔵している貴重図書の存在を知り、自校の歴史をより理解することで、帰属意識を醸成するとともに、卒業生をはじめ一般の方にも龍谷大学の魅力を広く発信する場としたいという思いを込めています。

各陶板画の詳細はこちらから



大宮キャンパス「黎明館」

龍谷大学校友会 福祉支部 設立



入会などのお問い合わせはこちらへお願いします。



事業計画、予算が承認され、寺田崇雄支部長(89年文卒)のもと、副支部長、理事、監事が選任されました。

記念講演では、当支部副支部長に就任されたNPO法人日本ミュージック・ケア協会の宮本啓子理事長(68年短卒)から、「ひとりひとりの命が輝くために」と題してお話をいただきました。

2月23日、深草キャンパスにて龍谷大学校友会福祉支部「龍谷福祉の会」が100名を超える方々のご参加のもと、設立総会・記念講演・祝賀会が開催されました。

設立総会では、会則や

「龍谷福祉の会主催 龍谷大学心の講座
『このとりのゆりかごから始まる第2の人生』
講師：宮津航一氏 ■開催日：26年1月11日(日)
会場：深草キャンパス 慧光館1階101教室
※詳細はこちら



- ◎校友会賞、校友総会、校友会新理事紹介 2面
- ◎安藤学長、赤松会長対談 3面
- ◎特集 キャンパスの新施設紹介 4、5面
- ◎OB OGみんなのニュース 6面
- ◎支部周年事業、コラム、仏教バズル 7面
- ◎仏教に学ぶ、校友のお店 8面

龍谷ミュージアム

秋季特別展「仏教と夢」

仏教で「夢」が最初に説かれるのは、仏母摩耶夫人がみた釈尊誕生にまつわる「托胎霊夢」の物語です。誰もがみたことのある「夢」は、仏教の世界観のなかで如何に扱われてきたのでしょうか。本展では、「夢と霊験譚」「仏教経典に説かれる夢」「玄奘三蔵はじめ東アジアの高僧らがみた夢」「儀礼と夢」「夢と聖地」について紐解きます。



- ◆会期：2025年9月20日(土)～11月24日(月・祝)
- ◆休館日：月曜日(ただし、10月13日(月)、11月3日(月)、11月24日(月)は開館)
- ◆開館時間：10:00～17:00 ※最終入館受付は閉館30分前まで
- ◆入館料：一般1,600円
- ◆問い合わせ：龍谷大学 龍谷ミュージアム
TEL 075-351-2500
<https://museum/ryukoku.ac.jp>



龍谷ミュージアム 無料で優待券

期日：2025年11月24日(月・祝)まで
(同伴者1名を含め
無料でご入館いただけます)

2025年度ホームカミングデー

学生模擬店チケット1,000円分を卒業生、同伴者全員に進呈

◆瀬田キャンパス：10月25日(土)
受付 10:00～15:30
模擬店開店時間 10:30～16:00

◆深草キャンパス：11月2日(日)
受付 9:30～13:30
模擬店開店時間 10:00～14:00
龍谷賞贈呈式 11:00～11:30 (顕真館)

※詳細は同封の「ホームカミングデー」のチラシをご参照ください。

法学部同窓会

今年は変化進化した深草学舎に集まろう

■日時：11月15日(土) 13:30開始(予定)
■場所：深草学舎
■内容：キャンパスツアー、懇親交流会
※詳細、申込はホームページ等でご案内しています。

法学部同窓会HP



経済学部同窓会

第10回ビジネスミーティングのご案内

■日時：11月2日(日) 13:30開始(予定)
■場所：深草学舎
■内容：講演会、交流会、懇親会
※詳細、申込は追ってホームページで公開いたします。

経済学部同窓会HP





第25回 校友会賞受賞者

課外活動などで顕著な成績を上げ、龍谷大学発展の
氣運を盛り上げた学生（在学生）に対して、その功
績を称え、表彰しています（学年は24年度）。

～25年度は過去最多の6個人（ペア含む）、3団体が受賞～

5月21日、創立記念・親鸞聖人降誕会の日に深草キャンパスにおいて、龍谷大学校友会賞贈呈式が執り行われました。

今年度は過去最多の5個人（1ペア含む）、3団体に校友会賞が授与されました。

受賞者代表挨拶として
小熊 龍さん（先端理工学研究科1回生）から、贈呈式に参列された方々への御礼と共に、在学生の皆さんへメッセージが贈られました。

新理事紹介						任期 2028年3月まで
氏名	役職	卒業、修了年	卒業学部、修了研究科	部会	「龍大時代の私」	
赤松 徹眞	会長	1976	文院了		二葉憲香先生ゼミで研究に、そして仏教・真宗に開眼、方向が定まる。	
小川 信正	副会長	1967	文	総務	龍谷大学に奉職して43年、その後も何かと大学の役職をいただき15年。ただ感謝。	
緒方 静子	副会長	1974	経営	総務	軟式庭球部 春秋の関西リーグ戦で優勝昇格したい人でした。結果は8部から2部へ！	
町田 徳男	副会長	1980	法	事業	ゼミ委員や美術部の活動を通じ仲間や先生方との楽園のような日々。	
荒川 林太郎	副会長	1993	社会	広報	ボランティア活動や現場でのアルバイトが今につながっています。	
成松 重人	総務部会長	1987	法	総務	安武ゼミと法律相談部、今を決定づける大きな4年間。	
菅谷 幸弘	事業部会長	1976	経済	事業	「我が良き友よ」と言う歌の歌詞のすべてではないですが、聴くたびに学生時代がよみがえります。	
泉 千晶	広報部会長	1989	法	広報	野外活動部（当時は同好会）で自然と戯れておりました。	
小濱 聖明	（常任）理事	2009	宮院了	総務	レポート提出や課題発表に追われた日々が今では懐かしい。	
田中 秀雄	（常任）理事	1997	理院了	総務	できたばかりの瀬田学舎で、日々研究に明け暮れていました。	
田中 友悟	（常任）理事	2017	政院了	事業	勉強も遊びも、思い出すのは夜の風景。あの頃は夜が長かった。	
脇田 知実	（常任）理事	2019	国際	事業	素敵な仲間と囲まれて、毎日が人生で一番楽しい日々でした。	
畑 雄一郎	（常任）理事	2019	農	事業	教科書より野菜でリュックパンパン。大宮学舎本館の竹まいから歴史の変遷と重厚さを学ばせてもらった。	
神鳥 誠	理事	1974	文院了	事業	教科書よりギターを携えて、フォークソングに没頭していました。	
畑 利和	理事	1974	経営	事業	学生とバイトの両立で、積極的な生き方を見つける事が出来ました。	
芝田 正男	理事	1981	経営	事業	淀の下宿から始まって、深草麻雀三昧、大宮・卒論四苦八苦、楽しい京都生活でした。	
松浦 顕雄	理事	1983	文	総務	第1回洋上セミナーに参加。当時の中国の異次元さが新鮮でした。	
村上 孝弘	理事	1986	法	広報	東村ハイツは体育館の裏にあり、シェパードが見張る下宿でした。	
松田 祥子	理事	1990	文	広報	短期大学部社会福祉学科に通っていました。	
前田 佳子	理事	1993	短期	広報		
成宮 孝之	理事	1993	社会	事業		
渡邊 善忠	理事	1995	法	事業	自分探しに夢中だった青春時代。未だに探しています！	
布谷 香織	理事	1997	文	総務	大宮学舎、東洋史谷川ゼミ、海外研修、紫朋館とマンドリン♪	
稲野 一美	理事	1997	文院了	総務	通学用原付で4万km以上。忙しくも楽しい充実した日々でした！	
山根 拓也	理事	1998	理院了	事業	講義とバイトと飲み会の日々でした。	
佐古田 英樹	理事	1999	文	広報	3地下で 友達を待ちつつ 食べるササミチーズカットと美味し	
水野 祥司	理事	2001	経営	事業	テニスサークル「Julian」に所属。早朝テニスをして、授業終わってからもテニス。学生時代は、サークル三昧でした。	
鷗田 知明	理事	2005	文	事業	仏道と相撲道、二刀流をだいぶ前から実践してまいりました。	
大島 優季	理事	2008	国際文化	広報	中国語と中国文化に染まりました。	
今堀 まゆみ	理事	2011	経済	広報	学友会館(成就館)の学食で坦々麺を2杯お昼に食べていました。	
高井 一実	理事	1978	経営	事業	大学時代は、私にとって自由を持て余す時代でした。人生を転換する出会いと、日々の研鑽の重要性を知る場でした。	
西口 智	理事	2013	宮院了	広報	アド☆サポで高校生と触れ合い、こび研で京都にまみれました。	
佐々木 了恵	理事	2015	政策	事業	学びに遊びに刺激いっぱい毎日でした！	
角本 知史	理事	2015	政策	事業	昼夜問わず研究を楽しんでいました。	
森 竜樹	理事	2016	理院了	広報		
吉岡 毅	理事	2016	社会	総務	ローターアクトクラブ（学外団体）に邁進する学生でした。	
松田 一朗	理事	2018	経済	広報	情報メディアセンターでアルバイト！休日も学校にいました。	
小澤 莉那	理事	2019	国際	広報	泉ゼミに所属し京都学について学びました！	
柳口 咲季	理事	2019	国際	広報	海外旅行が好きで、留学や8カ国旅行に行きました！	
水嶋 悠太	理事	2021	農院了	広報	ブレ龍など農学部らしくない活動もたくさんしていました。	
中川 鮎実	理事	2021	農	広報	サークルや学生広報スタッフと毎日充実した日々でした。	
樽井 博	監事	1971	経営			
中根 真	監事	1996	社院了		「緑の監獄」、瀬田キャンパスでのんびりスクスクと育ちました。	

いただき、多くのご縁の輪を広げて自分の望む何かを成し遂げていかれたらよいと思います。」

個人

小熊 龍さん（先端理工学研究科 1 回生）
金子 麗奈さん（文学部 4 回生）
小林 優花さん（経営学部 2 回生）
西 大輝さん（政策学部 4 回生）
中出 すみれさん（法学部 3 回生）
前田 悠登さん（経営学部 3 回生）
矢口 愛利菜さん（短期大学部 1 回生）

団体

龍谷大学学友会体育局バドミントン部（女子）
龍谷大学学友会体育局端艇部
龍谷大学学友会学術文化局吹奏楽部
【サクソフォン四重奏】

◆受賞の詳細は
下記QRコードから

校友総会、深草新棟キャンパスツアー、ランチ会を開催

6月7日、深草キャンパスの新棟「灯炬館（とうこかん）」にて25年度校友総会を開催しました。

総会終了後には、学生団体（アドミッシヨンサポーター）の協力のもと、灯炬館をはじめとする新棟の見学ツアーを開催。参加された卒業生からは、「今、学生だったら昼寝をしたい場所がいっぱいある。」「どこもかしこもきれいで気持ちがいいですね。」などとその変わりようへの驚きと、龍谷大学の進化への喜びの声が聞かれました。

ランチ会では、「聞思館」（もんしかん）に新たにオープンした「大阪王将」でのお食事。「純米吟醸 龍谷」※などで乾杯を行いました。

また、校友のお店の銘菓などもご用意し、会場に包まれていました。

当日、SNSに投稿していただいた方に校友会オリジナルグッズをプレゼントする「SNS投稿キャンペーン」も盛況で、つながりと温かさを感じた一日となりました。

※「純米吟醸 龍谷」のラベル（面写真参照）は99年に法学部を卒業された書道家の武田双鳳氏（二〇一九年度龍谷奨励賞）に「古樓で味のある書」のイメージで揮毫いただきました。お求めは龍谷メルシオンオンラインショップから

赤松校友会長が第20代学長に聞く

安藤新学長が掲げる「つどい、つながり、つむぐ」龍谷大学とは



赤松会長 学長ご就任、おめでとうございます。約2か月が過ぎましたが、どのように感じられておられますか？

安藤学長 図書館長、文学部長、副学長など、それなりに役職を経験してきましたが、学長に求められる視点の位置や現場との距離の取り方などは全然違うように感じます。

赤松会長 学長は、学外の関係団体などと大学をつなぐ役割も重要になるかと思いますが、学内でのこれまでのご経験を活かされていかれることと思います。

安藤学長 本学が誇る吹奏楽部のように、優秀な指揮者と有能な演奏者たちが揃うと、唯一無二の妙なる音色を奏でられます。ただし、優れた演奏集団であれば、だれが指揮しても一定以上のパフォーマンスは可能です。大学という組織も同じでしょうね。私の学長としての資質や能力は拙くとしても、教職員が学生の学びの充実のため、そして大学の発展のために誠実かつ意欲的に力を尽くしてくれているのかと思います。学長として、ときに教職員を先導し、ときに後押しし、ときに伴走しながら、龍大だからこそその魅力と価値を発信していきたいと思っています。

赤松会長 就任時に掲げられた「つどい、つながり、つむぐ」大学の具体像を聞かせてください。

安藤学長 もともとは、大宮キャンパスの新校舎「黎明館」のコンセプトとして考えたフレーズです。平安

時代に市場があり、多くの物や情報が行き交い、人々の交流した七条大宮の地に立つ黎明館は、大学単体の施設ではなく付属平安と共用する校舎であり、地域にも開かれた建物です。土地の歴史を受け継ぎつつ、多くの人がつどい、さまざまなつながりの中から、新たな価値と物語をつむぎ出す拠点として、黎明館を構想しましたが、それは龍大全体が目指すものでもあると思います、学長就任に際してこの言葉を掲げました。

昨年度、全学的に施設整備を進め、深草にも今春、新校舎が完成しました。これら新施設に共通する特長は「ゆとり」です。実際、建物に入ってみると、余裕のあるつくりになっていて、「余白」の存在を感じます。その余白スペースが学生たちのつどいの場となり、さらに「糊しろ」となって学外者も含めた新たな関係を生み出し

ていく、そんな可能性に満ちた「伸びしろ」の空間になればと思います。施設をはじめとする学修環境の整備は、きつと学生の学びの質を向上させ、社会課題の解決に向けた龍谷大学だからこそ共創的な取り組みを促してくれるはずです。龍大につどい私たち教職員も、地域とのつながり、過去とのつながりも大切にしながら、地球規模の視点に立つてよりよい未来をつむぎ出していくことのできる学生を育てていきたいと思っています。

ちなみに、深草キャンパスの施設整備のコンセプトは「深草を森にする」です。瀬田キャンパスには本物の「龍谷の森」もあります。この「森」の生態系を支えているのは土で、その土を豊かにしているのが菌類などです。菌類の一部は、キノコとして地上に姿を現わすものの、真骨頂は地中に広がる菌糸のネットワークにこそあります。菌類のありようは、「つどい、つながり、つむぐ」大学のイメージに重なるかもしれませんね。

赤松会長 多様な居場所があることで、学生がキャンパスに長く滞在するようになると、主体的な学び合いなどのより豊かな経験もできるようになります。環境を整えることは、学生たちの成長



を促すことにもなるのだと思います。教員との出会いも含めて、語り合い、学び合う場としての大学の意義は、これからますます大事になりますね。

安藤学長 図書館長の時も、学生の「利便性、快適性」を最優先にして、単に本を読んだり借りたりするだけではなく、居心地のよい場所としての図書館を目指しました。

赤松会長 龍谷大学の現状と今後の課題についてどのように考えておられますか。

安藤学長 予想以上の速さで進む少子化は深刻です。特に大学にとっては、18歳人口の急激な減少への対応が大きな課題です。本学も例外ではありません。私の在任期間は、18歳人口急減期を前にした「踊り場」の状態が続きます。その間に、本学のさらなる魅力をいかに創出し、発信していくかが決定的に重要です。その方向性は、すでに「龍谷大学基本構想400」の第2期中期計画として打ち出しています。今必要なのは、教職員一人ひとりが危機感を適切に認識し、問題意識を共有しながら、変革を加速させることです。

具体的な取り組みとしては、27年度に瀬田キャンパスに環境サステナビリティ学部と情報学部（いずれも仮称）を新設する予定です。両学部では、本格的な文理融合による実践的な学びに加えて、学部横断的な学びなども展開する中で、社会課題の解決と新たな価値創造の拠点となることを目指します。さらにその先には、総合大学の強みを活かしたキャンパス横断的な学びも実現していきたいと思っています。

赤松会長 27年開設の2学部は、他大学とも競合する分野で構想されています。これから、新学部の魅力と価値を周知、浸透させる重要な2年間にありますね。

安藤学長 新学部が展開するグリーンとデジタルの分野は、国の政策として強化支援対象になっており、すでにさまざまな大学が先行して取り組み始めています。いかに個性を発揮しつつ、より多くの人に関心を持つてもらうかが知恵の絞りどころです。350周年記念事業以来、「人間・科学・宗教」という総合テーマを掲げてきた本学が開設する新学部では、やはり建学の精神に基づいた龍大だからこそその学びの経験によって差別化を図ることが肝要です。



赤松会長 28年には、京都駅前の新拠点として「共創HUB京都（仮称）」も動き出す予定です。まさに、「つどい、つながり、つむぐ」大学のシンボルにもなりそうですね。

安藤学長 共創HUB京都には、新学部も含めた瀬田4学部のサテライト機能を持たせるほか、交流型の学生寮も整備する計画です。新拠点の整備にとともに取り組んでいる企業や金融機関などとも連携しつつ、社会課題の解決のための産業創出やコミュニケーション形成、人材輩出を促進するイノベーションと育て上げていこうと考えています。また、すぐ隣にある京都市立芸術大学との関係も深めていけると、面白いことができそうな予感もします。私自身、とてもワクワクしています。新たなステージに踏み出す龍谷大学の今後、ぜひご期待ください。

赤松会長 現在、龍谷大学の卒業生は約22万5千人います。そして、毎年約5千人の方が新たに校友になっています。そうした多彩多様な皆さんの卒業生たちの出会いの場を創出、提供すべく、校友会では地域支部の活性化に力を入れています。さらに、新たな職域支部の結成にも意欲的に取り組んでいます。24年度には「経営者の会」と「龍谷福祉の会」が設立され、今年度は「心理士の会（仮称）」設立に向けて動き出しています。農学部が設立10周年を迎えることもあり、農学系の職域支部も検討中です。こうした、卒業後にも交流し学び合える場は大切だと思っています。

最後に安藤学長から、校友会へのメッセージをお聞かせください。

安藤学長 多様な校友がつどい、つながり、つむぐ場としての校友会の存在と積極的な活動は、とてもありがたいがたく、また心強く思っています。新たな職域支部の設立も、地域や学部という括りとは異なる観点からのつながりの創出を促し、ひいてはそれが大学の未来を切り拓く力にもなるものと確信しています。卒業生のすそ野の広さは大学の発展の基盤です。本学の長い歴史と誇るべき伝統をつむいでこられた卒業生の活躍は、在学生たちにとっての希望です。龍大という森は、豊かな土壌たる校友のみなさんによって支えられています。みなさんの期待に応える大学、いや、期待を超えるような大学、そしてもう一度学んでみたいと思っていただけけるような大学となるべく、学長としてのつとめを果たしてまいります。ひきつづき、本学の取り組みにご理解とご協力をお願いいたします。

大宮キャンパス



「つどい、つながり、つむぐ」新校舎「黎明館」を軸に
地域社会とのつながりの場を生み出す。



「黎明館」の七条通に面したエントランス付近（校舎北東部分）には、学生や生徒だけでなく地域住民や観光客など一般の方々もつどいことのできるオープンテラスカフェを設置し、地域社会とのつながりの場を生み出します。こうした「黎明館」の意義を象徴的に表現すべく、球体が宙に浮かんだ姿が唯一無二の風景を生み出す新たな構造体「共創の樹（きょうそうのき）」を造型します。「共創の樹」を中心に多様な人々がつどい、つながりながら、新たな価値創造によってともによりよい未来をつくり、新たな歴史をつむぎ、伝えていくランドマークへと育てていきます。

木が浮いてる！？
オシャレで目を引く
建物ですね！

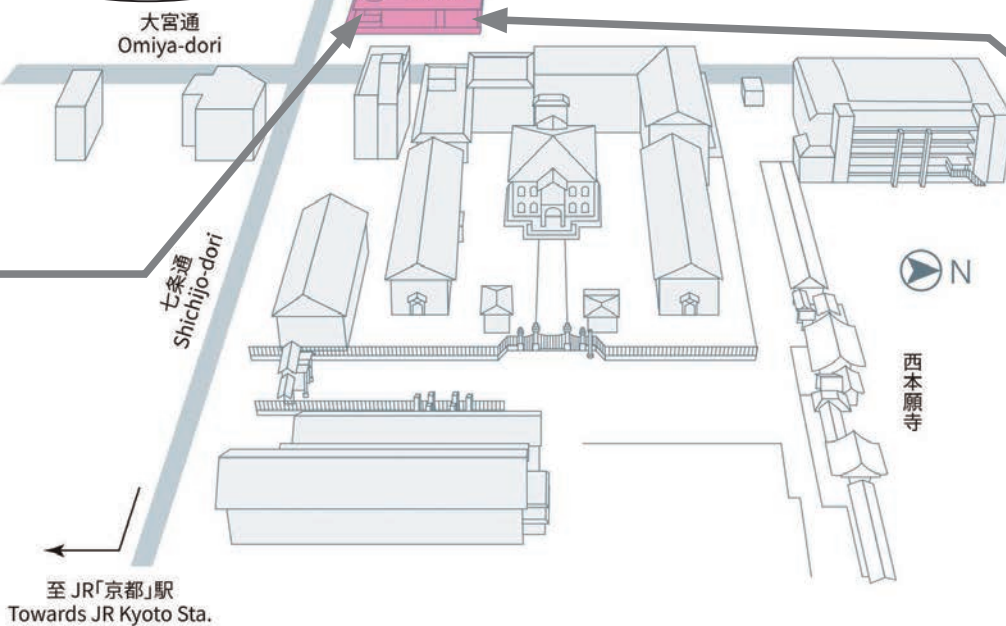
開放的でゆったり
落ち着いてすごせる
カフェが出来ました

学生は全メニュー
半額になります！
このボリュームで
半額は嬉しい！

2、3階は自習スペースや
腰掛けて休める場所が充実！
学友とつどい語らせる
空間になりました



共創の樹



瀬田キャンパス



「境界線をなくし、循環を生み出す」
共創と変革を先導するキャンパスへ



教育研究用一時休憩施設
「Rest Nest」

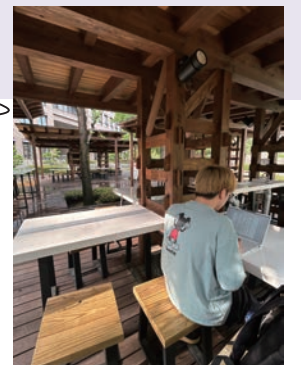
学生の教育研究活動を支援しています。
インテリアは無印良品で揃えられていて、
センスのいい落ち着ける空間です。



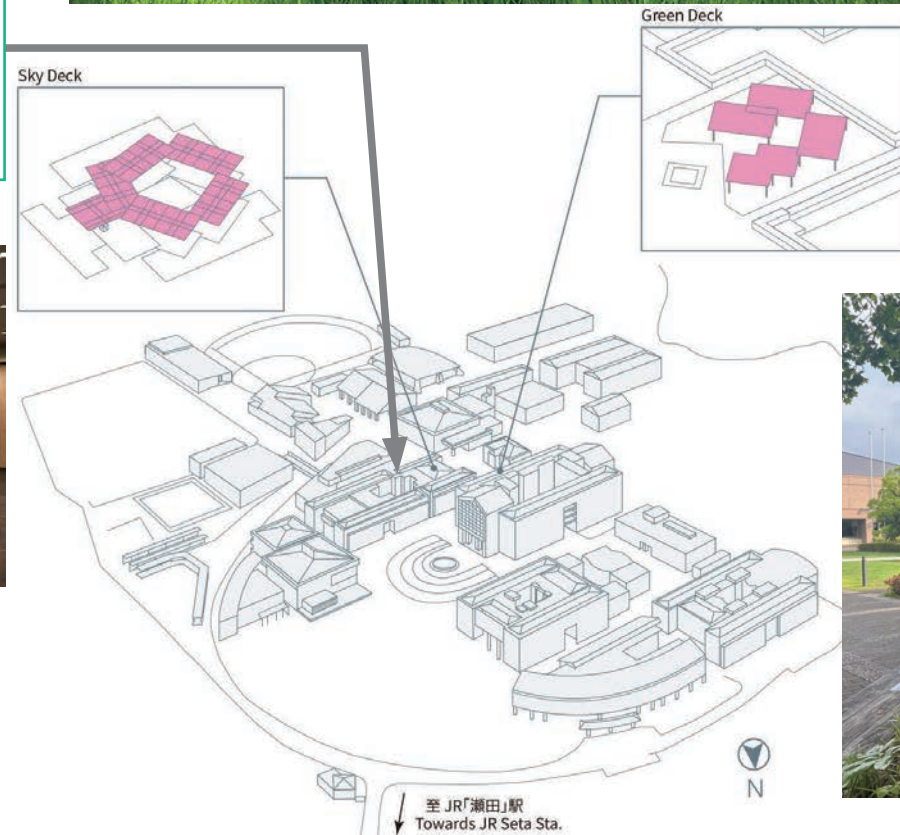
「Green Deck」 & 「Sky Deck」

自然科学を中心に展開し、共創を実現するキャンパスとして地域の特性を生かした価値創造や社会変革を牽引する拠点で学生が所属を超えて新たな価値を共創できる場に。このデッキは、滋賀県産木材「びわ湖材」の循環利用を前提とし滋賀県高島市朽木等の森林から伐採した原木を利用して建築。学生がフィールドワークとして森林を訪れ伐採・加工現場を経験しました。

風を感じながら
過ごせる心地よさ



インテリアは無印良品！
落ち着くし、研究疲れも
癒されます。



深草キャンパス

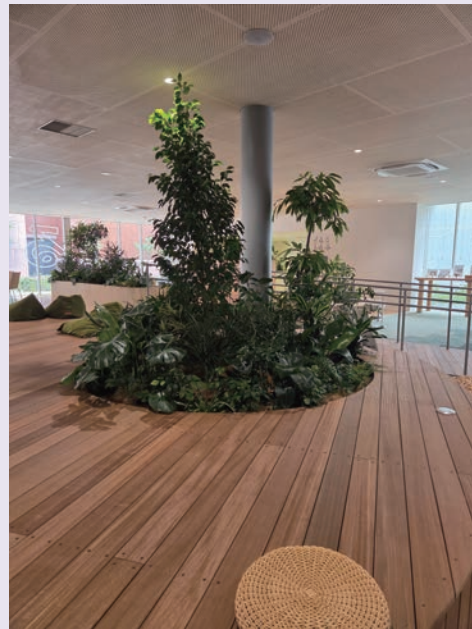


「深草を森にする」サステナビリティ実現に向けた
森のキャンパスへ



「る」の森

五感を刺激し、創造的な発想や新たな出会いを創出する場所。自然の中で過ごしているかのような誰もが自由に快適に過ごせる空間。
「るの森」には、「みつける」「かたる」「つながる」「はじまる」など様々な意味が込められています。



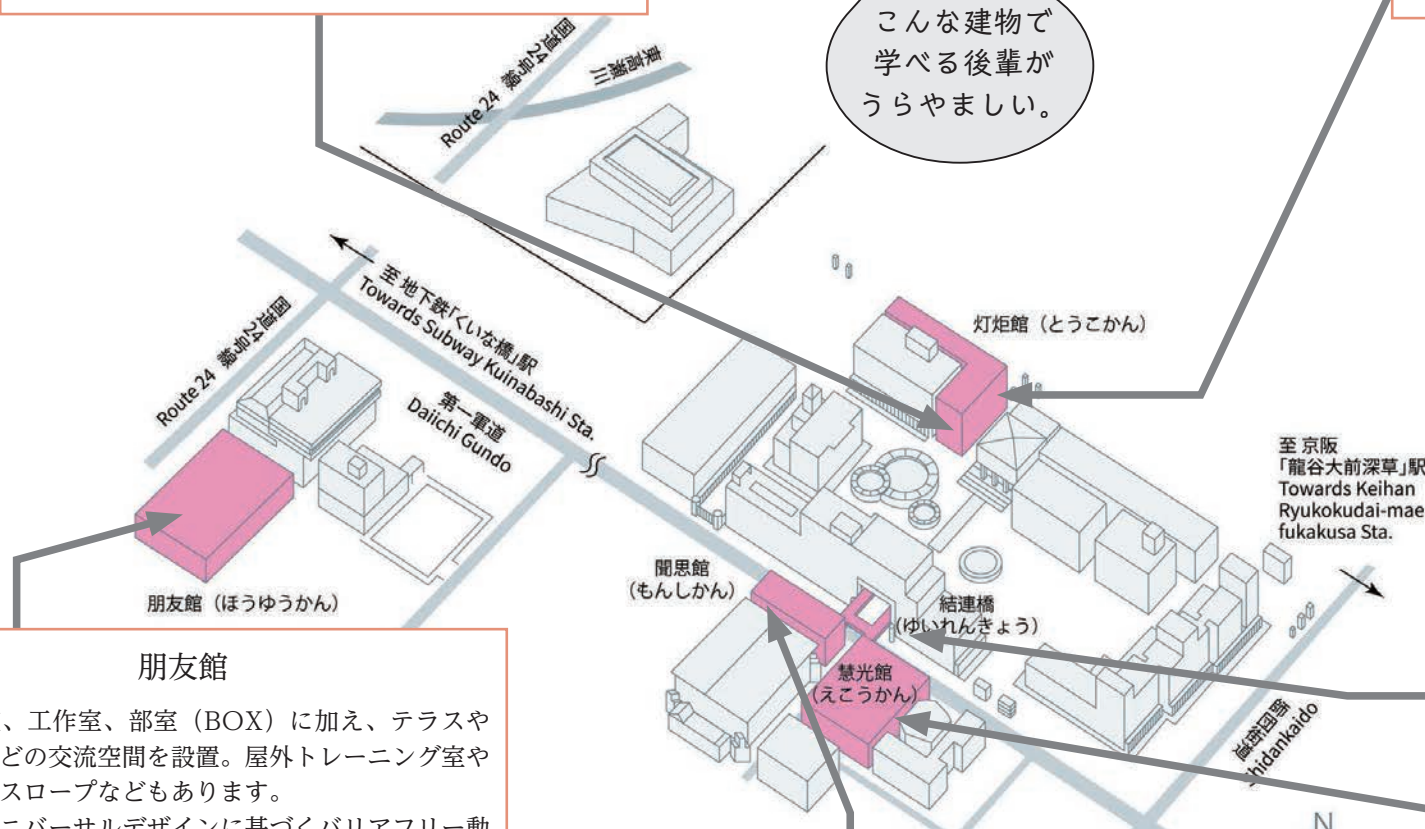
倉橋 基さん撮影
(2007年法学研究科了)



灯炬館屋上テラスからは
京都タワーも伏見稲荷大社もすぐそこに…
深草キャンパスの立地、すごつ。

藤井 康宏さん撮影
(1993年文学部卒)

学生や卒業生が集え、
東から西まで眺望できる
龍大の新スポットに感動！



朋友館

防音練習室、工作室、部室 (BOX) に加え、テラスやラウンジなどの交流空間を設置。屋外トレーニング室やランニングスロープなどもあります。
室内は、ユニバーサルデザインに基づくバリアフリー動線やオールジェンダートイレも整備されていて、誰もが安心して利用できる環境です。



立派すぎる
フィットネスジム！うらやましい！
(昔の卒業生)



中大路佳寿さん撮影
(2013年文学部卒)

願いが叶うなら、
龍大生に戻りたいなあ～。



「走るイベント」を
校友会で企画してほしい！



神谷 一郎さん撮影
(1990法学部卒)

龍大の中に「王将」ができたと
聞いて参りました。
私たちの時代には考えられなかった
事で驚きです。



旧学館は「慧光館」に

2025年4月から主に社会学部の学生さんたちが学ぶ教室になっています。
本学学生又は本学卒業生で、起業をめざしている、または起業して間もない方が利用できるコワーキングスペース「創業支援ブース」があります。

Pick up!! SNS



「43年前の写真を再現 ビフォーアフター」

1982年に法学部を卒業した同級生4人が、先日京都で再会しました。彼らは学生時代、下宿が近かった旧友です。今回の再会は、笹木さんと榮さんがそれぞれ別の用事で京都を訪れる機会があり、その際に榮さんが山本さんと前田さんを誘ったことから実現しました。笹木さんと榮さんは福井県在住で普段から交流がありますが、山本さんは兵庫県、前田さんは鳥取県にお住まいのため、卒業以来ほぼ初めての再会となりました。4人は京都駅で合流し、学生時代を過ごした懐かしい下宿界隈(深草ススハキ町や伏見稲荷大社)や大学を散策しました。その道中、榮さんが卒業式の前日に守衛さんに撮ってもらったという写真を取り出し、「これと同じ格好で写真を撮ろう」と提案。43年前の記憶が鮮明に蘇り、一同は懐かしさに浸りました。

詳細はコチラ



東京支部「異業種交流会、関西酒場『らくだば』で開催」

校友のお店である「らくだば」さんは新宿御苑前駅から徒歩にあるアクセス、居心地、料理よしの居酒屋です。店内が満員となる参加者数で交流会はスタートしました。交流会では参加者の自己紹介から始まり、若手からベテランまで幅広い年代の卒業生が、学生時代の部活動やゼミなどの思い出、そして現在携わる仕事のやりがいを語り合いました。年代を越えたネットワークを作ることができ、有意義な交流会となりました。らくだばさんと幹事の皆さまに感謝！今年、東京支部は20周に向けて、記念行事を企画中とのこと、今から待ちきれません。

詳細はコチラ



愛知県支部「龍Ron小町 消しゴムハンコのワークショップを開催」

新潟県小千谷市・極楽寺住職であり、龍谷大学短期大学部卒の麻田弘潤氏をお招きし、「消しゴムハンコのワークショップ」と、その題材となる「共命鳥(ぐみょうちょう)」に関する法話を交えた催しを行いました。ワークショップでは、自分自身で消しゴムハンコを作成する体験はもちろんのこと、仏教を題材としたさまざまなハンコを実際に押す時間もあり、大変盛り上がりしました。特に会員のお孫さんをはじめ、参加者の皆さまからは「時間が足りない!」との声が出るほどの好評ぶり、楽しみながら仏教の世界に親しむ貴重な機会となりました。麻田氏による仏教とアートの融合は、世代を超えて人々を惹きつける魅力があり、「作る」だけでなく「創る」ことができたとの感想もありました。今後もこうしたユニークな企画を通じて、仏教文化や校友会の活動をより多くの方々に広めていきたいと考えております。

詳細はコチラ



大阪・北大阪支部「笑顔に会える!夏の茨木フェスティバル!」

7月26日、27日と『第51回茨木フェスティバル』に出店しました。毎年恒例のスーパーボールすくい、お菓子釣り、ヨーヨー釣り、飲み物やメダカの販売を行いました。理事とその仲間、子どもたち、野外活動部の学生の応援もあり、今年も『チーム龍谷』で協力し活動しました。私たちは活動中、参加メンバーを含めたくさんの方にお会いすることが出来ました。お客様、卒業生、教え子など、ブースに来てくださった人たちは、皆さん笑顔でした。「久しぶり!」「手伝うよ!」「上手に釣ったね!」「やったー!ありがとう!」。支部活動は「人に会える!」「笑顔に会える!」すばらしい時間となりました。

詳細はコチラ



写真部OBOG会「今年も2月2日に恒例の新年会を開催」

当会では毎年、2月の第一日曜日に新年会を開催していき、恒例行事となっています。今年も、大阪・梅田にて、開催しました。井上好会長(74年経営卒)の開催挨拶、続いて、吉崎照芳氏(67年経済卒)の乾杯に拠り、新年会が始まりました。今年は22名の参加です。乾杯の後は、各々、好みの飲み物を片手に、美味しい料理に舌鼓。写真談義は勿論の事、懐かしい思い出話、各々の同期や、先輩、後輩の近況等々、終わること無い歓談の中、楽しい2時間は、あっという間に過ぎ去りました。写真にずっと携わっている方、全く、離れてしまった人、それぞれですが、そこは、同じ写真部のOB・OGですから、皆さん、とても打ち解けあった雰囲気の中、来年も、元気で集まれるようにと、願って、閉会となりました。

詳細はコチラ



琵琶湖愛好会OB会「5月16日 校友会特典にてアーバンホテル京都でOB会を開催」

深草キャンパス近くのアーバンホテル京都で、琵琶湖愛好会のOB会を開催しました。同愛好会は、1973年から1980年までの7年間だけ存在したサークルで、一番多い時で30人くらいの部員でした。いつもお昼に15大教室前の花壇に集まってそこへ行くと誰かがいる、まるで部室のような場所でした。周りの人達から『ビール愛好会』と言われるくらい、飲み会が多かったです。80年からは1泊2日のOB会を開催し、今年で45年目を迎えました。今回参加者は、西は長崎、東は埼玉から参加し、総勢16名になりました。チェックインからチェックアウトまで寝てる時以外、ほぼしゃべりっぱなし。チェックアウト後、深草キャンパスのスターバックスで、22号館食堂で昼ごはんを食べながらおしゃべりと、本当に楽しい時間でした。

詳細はコチラ



旅行研究会OBOG会「4月20日 幻の60周年記念大同窓会」

標記の会を本願寺聞法会館内のがんこ寿司にて開催しました。「幻の」とあるのは、コロナ禍によって部員が入らず旅行研究会が廃部になってしまったからです。今回の案内は第1期から第13期までの卒業生。発起人の挨拶のあと、先ず物故者の紹介、並びに黙祷を。次いで、大先輩による乾杯の発声を頂き、歓談が始まりました。なにしろ懐かしさが先行して美味しいお料理にお箸が届かない。先輩から楽しい報告を聞かせて頂きました。お開きの時間となり、玄関に出て逍遙歌を熱唱。青春が甦ることとなりました。翌朝、本願寺のお朝事に参拝。大宮学舎の後、深草学舎へ移動。すっかり変わった学舎に目を見張り、ウッドデッキに座ってしばし眩しいくらいの学生の動きに見惚れ、最後の目的である学食でのランチへ。美味しくご馳走になり、再会を期して解散となりました。

詳細はコチラ



校友 KIKOU

もっと読みたい
方はコチラから読み物コンテンツ
校友 KIKOU

支部の周年事業

紫松会

パナソニックグループ支部

7月12日、パナソニックグループ支部では設立40周年を記念した、松下幸之助創業者ゆかりの地を巡る「原点探訪イベント」に参加してきました。門真のパナソニックミュージアムで創業の歴史やフィロソフィーに触れたあとは、イタリアンレストラン「ビナリオ」でランチ。その後の総会は、なんとバス車内で実施！移動時間を有効活用した新しいスタイルでの開催となりました。午後は和歌山へ向かい、生誕の地や和歌山城をめぐり、夕方からは海鮮が美味しい「勝浦」にて懇親会。久々に顔を合わせるメンバーも多く、校友同士の交流も大いに盛り上がりしました。創業者の原点に触れ、仲間と語らいながら次の一歩を考える、学びとつ



ながりの一日でした。

桐友会

(教師・篤志面接委員)

6月6日、支部設立25周年事業の記念大会を開催しました。

「桐友会」は龍谷大学卒業生のOG、OBの篤志面接委員、教師、並びに顧問、賛助会員で構成されており、全国の矯正施設の見学や施設の篤志面接委員、教師と意見交換の場を設けそれぞれのより良き矯正について学



福井県支部

ぶ会として活動を続けています。25年の活動を記録した記念誌も発行いたしました。

記念大会当日は全国から会員があつまり、社会福祉学者の加藤博史先生の講演、シンガーソングライターで卒業生のやなせななさんのライブもあり、多くの方々と25周年を祝うことができました。

会場は北陸新幹線の延伸に伴い整備されたJR福井駅目の前にある商業施設ハピリンの3、4階にあるハピリンホール併設の会議室で総会が行われた後、心の講座として上方落語協会に所属される三代目林家染二師匠による落語会が行われました。林家染二師匠は85年法学部を卒業された校友でもあり、24年度に龍谷賞を受賞されています。

7月5日、設立15周年を迎えた福井支部の設立15周年記念総会&心の講座へ行ってきました。



挨拶あり、お楽しみ抽選会あり、写真撮影会あり、学歌斉唱ありの楽しい会となりました。

50周年記念事業

アメリカンフットボール部

7月20日、龍谷大学深草キャンパス顕真館・22号館地下食堂におきまして、龍谷大学学友会体育局アメリカンフットボール部創部50周年記念式典・記念パーティを開催いたしました。

その後、場所を移して開催された懇親会にはお隣の県から参加された石川県支部の皆さんからの

当日は第1期から現役までおよそ250名が一堂に会し、50周年のお祝いを行いました。



決意表明、応援リーダー部よりエールを受け、最後は第1期OB高田氏より、創部のエピソードをもって締めくくりとなりました。

第1回 仏教パズル

解答は102号に掲載

【問題】漢字詰めクロス問題です。仏教界の高僧が多く登場します。下のリストの漢字を空欄に当てはめてください。リストに残った四字熟語が答えです。さあ、頭の体操に挑戦しましょう。

			遍		善			一
龍					鸞	還		回
点			空		道			宗
		信		自			行	
	栄		法			礼		一
		行			澄	作	務	
日			本		善	三		帯
	如			行	天		法	
		迎			導		正	

基法然真
蓮晴一画
水源善等
龍西来願
向脚大覚
親元最親
樹曇相綽
儀谷衣学

答えが分かった方は下記QRコードまたはハガキ(氏名、卒業学部、住所は必須、近況報告など)で応募ください。ハガキ先送付先 〒61285 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学校友会事務局 正解者の中から抽選で20名様に龍谷大学校友会記念品をお送りします。◎応募締め切り：11月末日

今も使える 仏教用語

コラム

「聞思」



社会学部 教授 井上見淳 (01年文院了)

本年25(令和7)年の4月から社会学部は、89(平成元)年以来、長く親しんだ瀬田キャンパスから、深草キャンパスに引っ越してきました。それに伴い深草に素敵な新校舎が3つもできあがりました。

「聞思」とは、經典の「言葉」を聞いて理解すること(聞)と、その言葉に込められた道理を自分事として受け止めていくこと(思)が重要であると、親鸞聖人が示された言葉から取られたのだと思います。

ところで、私が瀬田キャンパスで事務処理をしていた数年前の2月末のこと。寒風の吹きわたるこの時期のキャンパスに学生はあまりいません。書類を

抱えていそいそと歩く私の背後から「見淳先生！……ですか？」とふいに呼び止められました。振り向くと女子学生が立っていたのですが、申し訳ないことに覚えがありません。

訊けば「仏教の思想」の受講生だったそうですが、本人いわく、大変ぶけた受講態度だったので覚えてなくて当然なのだったのか。しかし私に会いたかったのだと言います。よく事情

がわからず話を聞いてみると、彼女は二年生からアメリカに留学したそうです。しかし気後れしてしまい、現地であまく溶け込めずに苦労したそうです。時間だけが流れてゆく、心の置き所のないそんな日々のなか、あるパーティに参加したのですが、あまり話す人もいません。その時「仏教の思想」で何気なく聞いていた「孤独というの

氏名 福島 侑子 卒年 学部 14 経営 校友会長名、学長名で祝電をお贈りします。お申し込みは以下のQRコードで、学式日の1週間前まで。

「結婚おめでとうございます」

聞いていた言葉が、人生のある時にあなたたかく響いて、輝き始める。「聞思」とはまさにそういう言葉だといえましょう。

仏教に学ぶ

「人生の終末 心の救い」

2025年度「第1回龍谷大学心の講座」 2025年4月12日(土)開催より

まず死とは何か

実は漢字の中に答えがあります。死の左側の部首は骨を意味します。割れたお骨のことで亡くなった人を表しています。右側のカタカナの匕に見えるのは、拝む人、嘆き悲しむ人の姿です。このように死は亡くなった人だけで成立しません。死は暗いことではありません。死は悲しみと愛情が溢れることです。

往生とは

龍谷大学の建学の精神、親鸞聖人は人生の終末と心の

救いについて「往生浄土」と

「還相回向」と教えています。往生の往は往復往来です。往復切符は英語でRound Ticket。お土産を持って戻ってくる。つまり往生の往という言葉の中に仏様になって帰ってくるという意味がある。往生にはこれからの一緒という意味があるのです。

誰もある四つの苦しみ

一つ目は身体的苦痛。特に終末期になると息苦しく体がだるく日常生活ができなくなります。二つ目は精

神的苦痛。不安苛立ち孤独

などを感じます。三つ目は社会的苦痛。仕事ができなくなったり学校に行けなくなったりして自分が社会的な役割を果たせなくなるという苦しみです。四つ目にスピリチュアルの苦痛、生きる道が見いだせない苦しみが出てきます。

医師は身体的苦痛を治せますが、「なぜこんな目に遭うのですか」「死んだらどうなるのですか」と聞かれても答えられません。支えと寄り添うの違い

私たちは心の支えを持っています。

心の支えの一つ目は「人」で周りの人たちの支えです。二つ目は「自分」です。過去・現在・未来の自分が自分を支えています。三つ目は「仕事、食事、経済など大切な物事」です。四つ目は「仏や神、亡き人の愛情」で

す。これら支えを大切に確認

すると生きていきます。ケアの源泉は、何かをすることではなくそばにいること。食べられなくなった人に一さじのお粥を持って行っても食べられない。それでもそこにいるだけで支えになります。これを仏教では月愛三昧(ガツアイザンマイ)と言います。英語ではthe Samadhi of Moon Radiant Love. 月が輝いて闇夜にいる私たちを照らし守るように黙ってそばにいてくれる、これが仏様だというわけです。

黙ってそばにいるという事が心の支えになるという事です。

「支える」には責任が伴います。支えるためには専門知識や技術が必要です。

「寄り添う」は違います。寄り添うだけで前に進むのです。そばにすることで、ぬく

もりと感謝が現れてくると思います。

私は大学で学生の皆さんにシンプルにゴミ箱になれと教えています。ゴミ箱は部屋の真ん中にはありません。自分の足元か部屋の片隅にあって、存在は主張しなくてもそれがあると心が整理されます。自分のものを全て受け止めてくれるのがゴミ箱です。ゴミ箱の特徴は逃げないで待っていること。それが本当の宗教者だと生徒たちには言って覚悟をさせています。

死に直面している人の希望とは

一つ目には当たり前の日常が輝くことです。二つ目には自分の愛と願いが誰かに継承されることです。三つ目は再会の希望ですね。終わりがなくて待っている。これからの一緒という、亡くなっていく人の希望です。人は一人で生きているのではなく他の誰かに生かされています。誰かに愛されたと感じたら寂しさが和らいで安らぎを感じる事ができます。文学的に言うと、古い星と新しい星が時を越えて夜輝くように、愛する人は亡くなったあとも、あなたの心に輝き続けているのではないのでしょうか。

編集後記

校友会広報部会は、「大胆な広報戦略と、伝統を守る広報」というコンセプトに基づき、校友会の様々な活動をお知らせすることに努めております。SNS全盛の時世を踏まえたデジタルツールによる発信の強化を図るとともに、『龍谷大学校友会報』による伝統的な広報展開も継続して参ります。本号から、誌面を9段から8段とし、出来る限り「文字を読みやすく、写真を大きく」するように構成しました。今後も本誌に親しんでいただければ幸いです。

(広報部会 村上孝弘)



校友のお店
祇園 和食割烹
「白川たむら」

おもてなしを大切に
日本人の心を念頭に

田村 尚重さん
(01年文卒)

校友会ホームページ
「校友 KIKOU」より



龍谷大学を卒業して早や30年が経とうとしております。高校生当時の私は、京都の私立高校の野球部に所属

し3年間全力で白球を追うような青春時代を過ごしました。他府県のような環境から集まった仲間ともしっかりと見聞を広めたい、経験値を上げたいと思ひ、龍谷大学に入学。高校生活で体験したことのない広大なキャンパスと圧倒的な学生数の多さに戸惑いながらも、楽しく

キャンパスライフを過ごしておりました。直ぐに友達もでき、大学生活の視野が広がったのを感じております。勉学以外では、高校までの仲間、後輩達の力も借りて、龍谷大学だけでなく他大学からの仲間たちとともに合同野球部サークルチームを結成し、週末には必ず集まって練習試合を楽しみました。日刊スポーツ新聞、



ミズノスポーツ主催の全国大学サークル軟式野球大会、関西大会に出場しベスト8まで勝ち上がる事ができ、仲間達と歓喜を共にしたのも懐かしい思い出です。龍谷大学でのキャンパスライフを通じて、人と人と

の縁と繋がり、交流、出会いを特に大切に噛み締めておりました。一生の財産となった友人たちとは今でも連絡を取り合い、時には酒を交わしながら昔話に華を咲かせ、生涯の友に出会えた喜びに感謝しております。

私は現在、割烹料理の料理人をさせていただいております。大学を卒業して間もなく、就職活動のご縁から、寮生活のある地元京都にて料理修行という道を選びました。元来、物を作る事や人を楽しませる事が好きな性格であった為です。就職して初年度から3年位は

祇園 和食割烹「白川たむら」
京都市東山区新門前通大和大路東入
2丁目中之町248-6
京阪電車祇園四条駅から徒歩約6分
同三条駅から徒歩約5分
TEL 075-533-8805
LUNCH12:00 ~ 14:30
DINNER18:00 ~ 20:00(Lo20:00)
定休日：不定休(主に日曜日定休)

メモリアルサイトに卒業生のメッセージ募集中！
短期大学部卒業生、専攻科修了生の方は、
ぜひお寄せください。

24年度入学生を最後に短期大学部は学生募集を停止し、在学生がいなくなれば70有余年の歴史を閉じることになります。これまでの歴史や各種証明申請方法等の卒業生向け情報を掲載するメモリアルサイトを準備中です。サイトに卒業生・修了生からのメッセージを掲載予定です。右記のQRコードから在学中の思い出などのメッセージをぜひお寄せください。
◆メッセージ受付期間 25年12月26日(金)まで

